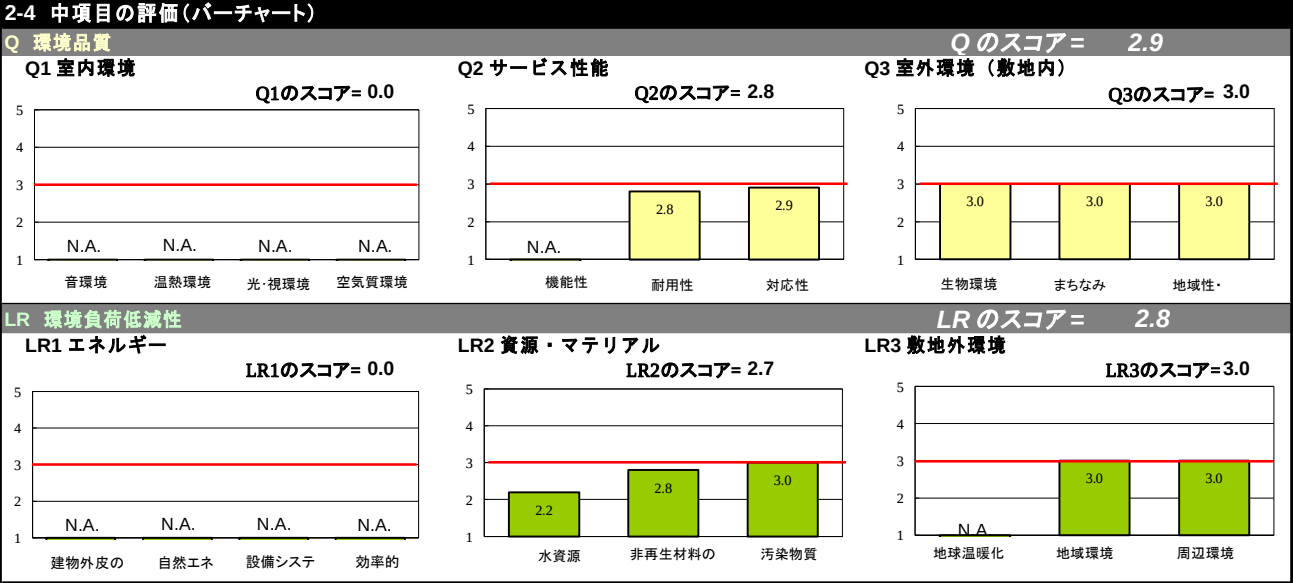
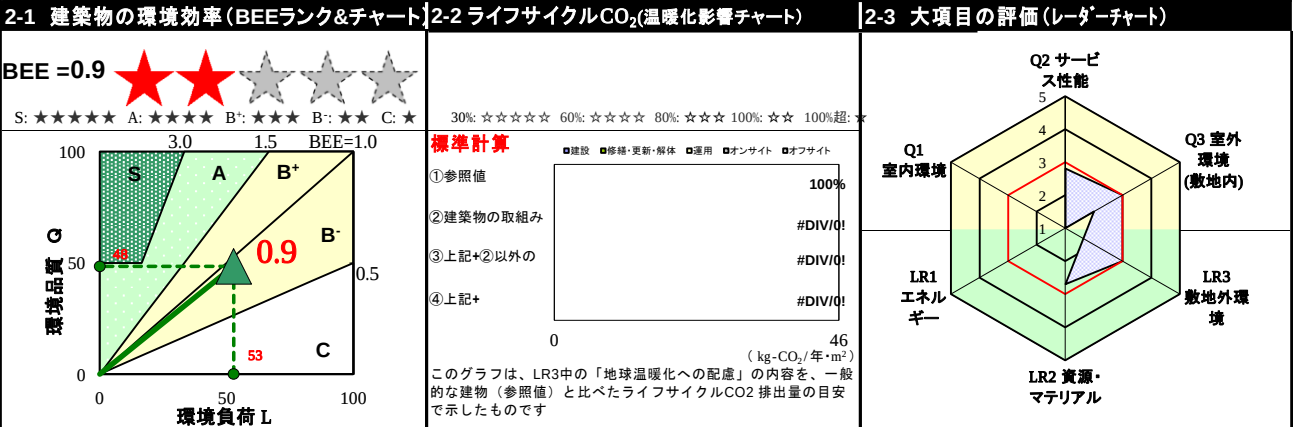


CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	(仮称)高槻市富寿栄住宅建替事業	階数	地上2F	本図を右クリックし、「図の変更」を選択していただくことで、外観図等を貼り付けることができます。	
建設地	大阪府高槻市富田町	構造	S造		
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防	平均居住人員	0 人		
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)		
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2025年11月 予定	評価の実施日	2024年3月27日		
敷地面積	5,650 m ²	作成者	株式会社長谷工コーポレーション		
建築面積	1,040 m ²	確認日	2024年3月27日		
延床面積	2,055 m ²	確認者	株式会社長谷工コーポレーション		



3 設計上の配慮事項			その他
総合			
自動車導線を明瞭とすることにより、駐車時の渋滞緩和等CO2削減に努めている。			
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)	
対象外	内装がなく配線を露出させていることにより設備の更新性を図っている。	敷地境界際に緑地帯を設け、周辺環境に対して良好な景観となるよう配慮している。また、住棟と自走式駐車場の間にも緑地帯を設け、住環境にも配慮した。	
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境	
設備システムの効率化を図り、省エネルギー化を図っている。	建物がほぼ躯体のため、容易に分別が可能である。	燃焼設備を使用していない。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)高槻市宮富寿栄住宅建替事業(2工区B棟) 新築工事								
建設地		大阪府高槻市富田町								
用途／区分		工場								
【評価結果】	CASBEE 総合評価						B－			
①	CO2削減	評価対象外					評価対象外			
②	みどり・ヒート アイランド対策						3			
③	断熱性能	評価対象外					評価対象外			
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外					評価対象外		
④	エネルギー消費性能	評価対象外					評価対象外			
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外					評価対象外		
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外					評価対象外		
⑤	自然エネルギー直接利用						—			
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—	
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—	
		エネルギー消費量の報告							報告しない	
【評価項目】										
項目		評価内容					スコア	評価		
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮						－		
② みどり・ヒートアイランド対策										
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					3.0	3		
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					3.0			
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善					2.0			
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制								
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化						－		
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用						—		
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない		
その他										
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項					
特に配慮した事項										